

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ペンギンシールPS169N専用硬化遅延剤
製品コード	-
会社名:	サンスター技研株式会社
住所	山梨県南アルプス市宮沢181-1
担当部門	品質保証部
電話番号	055-284-3801
緊急連絡電話番号	055-284-3801
化学品の推奨用途	シーリング材用添加剤
使用上の制限	推奨用途以外への使用は禁止する。

2. 危険有害性の要約

GHS分類および注意書きを含むラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体	区分に該当しない
自然発火性液体	区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分に該当しない
皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2B
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
生殖毒性	区分に該当しない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分に該当しない

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性)	区分に該当しない
水生環境有害性(慢性)	区分に該当しない

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル

-

注意喚起語

警告

危険有害性情報

H320 眼刺激

注意書き

【安全対策】

P264 取扱い後はよく手を洗うこと。

【応急措置】

P305+351+338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P337+313 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。

GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険有害性

知見なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

単一物質

化学名又は一般名称

シーリング材用硬化遅延剤

4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師を呼ぶこと。

皮膚に付着した場合

水又は適温の流水で洗浄した後、石鹸を用いてよく洗い落とす。皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを求めること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。清水で口の中を洗浄すること。無理に吐かせないこと。気分が悪い場合は、意思の診察、手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

知見なし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

知見なし

5. 火災時の措置

<p>適切な消火剤： 使ってはならない消化剤 火災時の特有の危険有害性： 特有の消火方法：</p>	<p>粉末消火剤、泡状消火剤、炭酸ガス、乾燥砂 棒状注水 燃焼すると一酸化炭素などの有害ガスが発生する。 消火作業は風上から行う。 初期消火は火元を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。 大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 周囲の設備等の輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置を取る。 火災発生場所周辺への関係者以外の立入りを禁止する。 消火作業の際は、空気呼吸器を含め適切な化学用保護衣を着用する。</p>
<p>消火を行う者の特別な保護具 及び予防措置：</p>	

6. 漏出時の措置

<p>人体に対する注意事項、保護具および 緊急時措置： 環境に対する注意事項： 封じ込め及び浄化方法と機材：</p>	<p>作業者は適切な保護具(8. ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や ガスの吸入を避ける。 河川等に排出され、環境へ影響を及ぼさないように注意する。 危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 関係箇所に通報し応援を求める。 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で 廃棄処理する。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。</p>
<p>二次災害の防止策：</p>	
<p>回収、中和：</p>	

7. 取扱い及び保管上の注意

<p>取扱い 技術的対策： 局所排気・全体換気： 安全取扱い注意事項：</p>	<p>保護手袋、衣類及び眼、顔面用の保護具を着用すること。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取扱いをしてはならない。 蒸気の発生源を密閉する設備または局所排気装置を設ける。 接触、吸入または飲み込んではいない。 取扱い後はよく手を洗うこと。 蒸気を吸入しないこと。 屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。</p>
<p>保管 技術的対策： 保管条件</p>	<p>熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。一禁煙。 容器を密閉して換気の良いところで貯蔵すること。 冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。 容器は直射日光や火気を避けること。 指定数量以上の危険物は、貯蔵所以外の場所でこれを貯蔵してはならない。 施錠して貯蔵すること。</p>
<p>容器包装材料：</p>	<p>消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。</p>

8. ばく露防止及び保護措置

<p>管理濃度、濃度基準値、許容濃度(ばく露限界値、生物学 未設定</p>	
<p>設備対策：</p>	<p>換気及び洗眼器、シャワー等の設置を配慮する。</p>
<p>保護具 呼吸用保護具：</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じた適切な呼吸用保護具を着用する。 ・高濃度の化学物質を取り扱う場合は、送気マスクの着用を検討する。 ・作業者がガスや蒸気にばく露される場合は呼吸用保護具(防毒マスク等)の着用を検討する。 ・防毒マスクの選択については、以下の点に留意する。 <ul style="list-style-type: none"> -酸素濃度が18%未満の場所では使用しない。 -作業者が粉じんにはばく露される環境で防毒マスクを使用する場合には、防じん機能を有する防毒マスクを使用する。 -防毒マスクは、登録型式検定機関が行う型式検定に合格した、作業に適した性能及び構造のものを選ぶ。その際、取扱説明書等に記載されているデータを参考にする。
<p>手の保護具：</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不浸透性の保護手袋の着用を検討する。 ・保護手袋の選定については、以下の点に留意する。 <ul style="list-style-type: none"> -取扱説明書に記載されている耐浸透性クラス等を参考として、作業に対して余裕のある作業時間を設定し、その時間の範囲内で保護手袋を使用する。
<p>眼、顔面の保護具： 皮膚及び身体の保護具：</p>	<p>眼の保護具(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用すること。 長袖作業着等、必要に応じて不浸透性の保護服及び保護長靴、保護前掛けを着用する。</p>

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態:	液状
色:	無色
臭い:	無臭
融点/凝固点:	-45°C
沸点、初留点および沸騰範囲	0.4~2.9vol%
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/	403°C/101.3
可燃限界:	kPa
引火点:	235°C
自然発火点:	374°C
分解温度:	データなし
pH:	該当せず
動粘性率	データなし
溶解度:	水への溶解度 0.0006mg/L(20°C)、アルコール、エーテルなど有機溶剤に可溶
n-オクタノール/水分配係数:	log Pow = 8.8
蒸気圧:	80Pa(200°C)、6 × 10 ⁻⁵ Pa(20°C)
密度又は相対密度:	0.975~0.977
相対ガス密度:	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性:	常温では安定。
化学的安定性	常温では安定。
危険有害反応可能性	常温では自己反応性はない 水と徐々に反応して分解する。 酸、アルカリと接触すると反応するが、その反応は穏やかである。
避けるべき条件:	高温、火炎やスパーク等の着火源となるもの
混触危険物質:	酸、アルカリ、酸化剤との接触を避ける。
危険有害な分解生成物(一酸化炭素、二酸化炭素、水以外):	燃焼により、一酸化炭素・二酸化炭素を生成する

11. 有害性情報

急性毒性

	経口	経皮	吸入(ガス)	吸入(蒸気)	吸入(ミスト)
成分A	区分に該当しない ≥10g/kg	分類できない	分類対象外	分類できない	分類できない

急性毒性(経口)	含有成分のATEから混合物としてのATEを計算し、急性毒性(経口)を「区分に該当しない」に分類した。
急性毒性(経皮)	データなし。
急性毒性(吸入:ガス)	含有成分の区分がいずれも液体であり、気体ではないことから、混合物としても分類対象外とした。
急性毒性(吸入:蒸気)	データなし。
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	データなし。
皮膚腐食性/刺激性	「区分に該当しない」(0.5g/72H 刺激性なし(ウサギ))
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2B(0.1g/72H 軽微な刺激性(ウサギ)[EU-RAR])
呼吸器感作性	データなし。
皮膚感作性	データなし。
生殖細胞変異原性	「区分に該当しない」(微生物による変異原性試験で陰性と判定されている)
発がん性	データなし。
生殖毒性	「区分に該当しない」
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	「区分に該当しない」(高濃度の投与で影響なし(霊長類))
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし。
誤えん有害性	データなし。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) 「区分に該当しない」(LC50>100mg/L (ゼブラフィッシュ)96H)

水生環境有害性 長期(慢性) 「区分に該当しない」(良分解性があり(BODによる分解度:74%))

残留性・蓄積性

データなし。

生態蓄積性

魚の推定BCF<14

土壌中の有害性

データなし。

オゾン層への有害性

データなし。

13. 廃棄上の注意:

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

陸上、海上、航空の国際規制及び国内規制

国際規則

国連番号	非危険物
国連輸送名	非危険物
国連分類	非危険物
容器等級	該当しない
緊急時応急指針番号	該当しない
海洋汚染物質(該非)	データなし
MARPOL73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質(該当・非該当)	データなし

国内規制

陸上輸送	消防法に定められている輸送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定められている輸送方法に従う。
航空輸送	航空法に定められている輸送方法に従う。

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

国内法令名称、規制

労働安全衛生法:

名称等を通知すべき、およびリスクアセスメントが必要な危険物及び有害物(57条の2、3):

(令和8年3月31日まで)

該当物質なし

(令和8年4月1日以降)

フタル酸ジイソノニル

名称等を表示すべき危険物及び有害物(57条):

(令和8年3月31日まで)

該当物質なし

(令和8年4月1日以降)

フタル酸ジイソノニル

濃度基準値設定物質(安衛則第577条の2第2項) 該当物質なし

皮膚等障害化学物質(労働安全衛生規則第594条の2(令和6年4月1日施行))及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質

皮膚刺激性有害物質: 該当物質なし

皮膚吸収性有害物質: 該当物質なし

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(通称 PRTR法): 該当物質なし

毒物及び劇物取締法:

非該当

消防法:

危険物 第4類第4石油類
非水溶性(指定数量6000L)

その他:

16. その他の情報

本SDSにおいて労働安全衛生法の通知対象物質の含有量が幅表示の場合は、営業機密である場合を含みます。

引用文献

- 1) 化学物質の危険・有害性便覧(中央災害防止協会)
- 2) 許容濃度等の勧告(2014年、日本産業衛生学会)
- 3) ACGIH

この安全データシートに記載の内容は、最善の調査に基づき現時点で入手できた情報により作成しておりますが、物理化学的性質、危険有害性等に関してはいかなる保証をするものではありません。本製品は、この安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を実施のうえご利用下さい。尚、法改正や新しい知見、製品の改良等に伴い、予告なく安全データシートを改訂する場合があります。